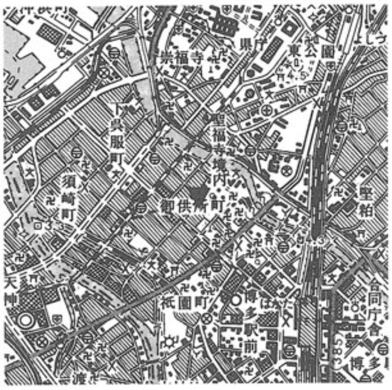
福岡・博多（はかた）遺跡群

1　所在地　福岡市博多区上呉服町
2　調査期間　第一二〇次調査B区　一九九九年（平11）一二月～二〇〇〇年三月
3　発掘機関　福岡市教育委員会
4　調査担当者　大庭康時
5　遺跡の種類　都市跡
6　遺跡の年代　弥生時代中期～現代
7　遺跡及び木簡出土遺構の概要



（福　岡）

博多遺跡群は、博多湾に面して形成された砂丘上に位置する複合遺跡である。遺跡群全体の時期は弥生時代中期から現代に及ぶが、古代末から中世にかけての対中国・朝鮮の貿易拠点として著名である。

今回の調査地点は、砂丘の東側縁辺部にあたり、古代には砂丘列間の低湿地であった。その後、一三世紀前半に人為的な埋め立てが行なわれ、一四世紀には聖福寺の塔頭の敷地となる。聖福寺は鎌倉時代初頭、宋から禅宗を携えて帰朝した栄西が、博多在住宋商人らの援助を得て創建した寺院である。前述の一三世紀前半の埋め立ては、聖福寺創建に関わる地業の可能性がある。

木簡は、埋め立て以前の湿地に堆積した砂層から二点出土した。この層からは、流れ込んだ状態の人骨も出土しており、付近（おそらく南側）に葬地が営まれていたものと推測される。

木簡は、砂層の年代観から、一二世紀のものと推定している。

8　木簡の釈文・内容

(1)　「南无南无　(127)×12×10　061

(2)　「南无阿□〔弥ヵ〕□〔如ヵ〕□□　(136)×21×2　061

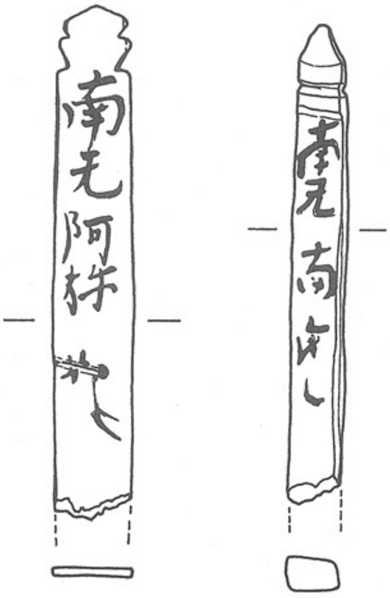
(1)は、角柱の頭部を板碑状に削り出す。墨書は柾目の面に書かれているが、肉眼ではみえず、赤外線テレビカメラ装置で判読した。(2)は、柾目の薄い板材で、頭部を削り出して卒塔婆形に作る。墨書は肉眼ではほとんどみえず、墨書部分が盛り上がってみえるだけだが、赤外線テレビカメラ装置では若干墨痕が追える。「南无阿」までは確実で、次は不明瞭ながら「弥」であろう。その次は墨がみえない。その下の板に切れ目が入ってめくれている部分に、鮮明な墨

痕がみえ、字形から「如」と思われる。さらにもう一文字分の墨痕が残るが、漢字の払いの一部がみえるだけで、形はつかめない。以上から、本来は「南无阿弥陀如来」とあったと推測される。

9 関係文献

福岡市教育委員会『博多』八〇（福岡市埋蔵文化財調査報告書七〇六、二〇〇二年）

（大庭康時）



(1)　(2)

文化財写真に携わる人の必携マニュアル
『埋文写真研究』一六号
埋蔵文化財写真技術研究会編

巻頭言　金子　裕之
特集　フィルムメーカーに聞く　編集委員会
画像処理一考　宮田　公佳
白黒フィルムISO感度　井本　昭
立面集合写真覚書II—構成エレメント編—　栗山　雅夫
仏像と写真　浅湫　毅・金井杜男
あなたが参考にしている本は何ですか？　今泉由紀子　他

在庫状況のお知らせ
頒価　一号～五号　品切れ　六号～八号　三五〇〇円
九号　三〇〇〇円　一〇号～一六号　三五〇〇円
送料　一冊～四冊　五〇〇円
五冊～一〇冊　一〇〇〇円　一一冊以上　無料
ご注文は、埋蔵文化財写真技術研究会まで直接お申し込みください。ご送金は郵便振替でお願いいたします。
宛先　〒六三〇—八五七七　奈良市二条町二丁目九番一号
奈良文化財研究所気付　埋蔵文化財写真技術研究会
電話　〇七四二—三〇—六八三八
郵便振替　口座番号　〇一〇五〇—九—九九三〇
埋蔵文化財写真技術研究会
ホームページ　http://www.maishaken.jp/